



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701

FAX(03)3270-2720

緊急連絡 同上

改訂 平成28年04月06日

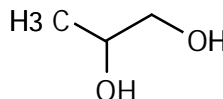
SDS整理番号 16533250

製品等のコード : 1653-3250、1653-3260、1653-3270、1653-3280

製品等の名称 : プロピレングリコール (1,2-プロパンジオール)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)可溶化剤、賦形剤、溶媒、化粧品添加物、医薬部外品添加物、医薬品添加物など



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体 : 区分外
自然発火性液体 : 区分外

健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分外
急性毒性(経皮) : 区分外
皮膚腐食性・刺激性 : 区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分外
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) : 区分3(麻酔作用)

環境に対する有害性
水生環境急性有害性 : 区分外
水生環境慢性有害性 : 区分外

注意喚起語: 警告

危険有害性情報
眠気又はめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】

ミスト、蒸気などの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

【応急措置】

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 単一製品
化学名 : プロピレングリコール
(別名) 1,2-プロパンジオール、プロパン-1,2-ジオール、
1-メチルエタン-1,2-ジオール

(英名) Propylene glycol, 1,2-Propanediol (TSCA名称)、
Propane-1,2-diol (EINECS名称)、
1-Methylethane-1,2-diol
成分及び含有量 : プロピレングリコール、 98.0%以上
化学式および構造式 : CH3CH(OH)CH2OH、 C3H8O2、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量 : 76.10
官報公示整理番号(化審法) : (2)-234「プロパンジオール」
(安衛法) : 2-(8)-321、 2-(8)-323
CAS No. : 57-55-6
EC No. : 200-338-0
危険有害成分 : プロピレングリコール
・ 消防法 危険物 第4類引火性液体 第三石油類 水溶性

4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合 : 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。
皮膚刺激などが生じた時は医師の手当てを受ける。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合 : 直ちに、水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用
している場合は外し、洗浄を続ける。
まぶたを親指と人さし指で上げ目を全方向に動かし、眼球、まぶたの
隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、うがいをする。
少量であれば、コップ数杯の水を飲ませ、体内で薄める。
多量であれば、多量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状 :
吸入 ; データなし
皮膚 ; データなし
眼 ; 発赤、痛み
経口摂取 ; 下痢、腹痛

5. 火災時の処置

消火剤 : 本製品は可燃性である。
粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧など。
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤 : 棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性 : 加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、ミスト、蒸気などを吸入しない。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で
適正に廃棄処理する。
大量の場合、盛土で困って流出を防止し、密閉できる容器などに
回収する。
封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
周辺の発火源を速やかに取除く。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い
技術的対策 : 裸火禁止。強力な酸化剤との接触禁止。
引火点(99)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気
装置を使用する。
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。

- 炎、火花または高温体との接触を避ける。
 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 局所排気・全体換気安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
 取扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 炎、火花または高温体との接触を避ける。
- 保管
 技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の
 軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。
 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な
 傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
- 保管条件 : 直射日光や高温を避ける。
 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。
 一定の場所を定めて、施錠して保管する。
 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 強酸化剤（硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなど）
 容器包装材料 : ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど

<参考> 室温での容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

本品のデータなし。
 類似化合物の1-プロパノール(CH₃CH₂CH₂OH、CAS No.71-23-8)のデータを示す。

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

スチレンゴム クロロプレンゴム(ネオプレン) ニトリルゴム ブチルゴム
 天然ゴム シリコンゴム フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) テフロン
 軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム - 銅 -
 軟質塩ビ× 硬質塩ビ ポリスチレン - ABS ポリエチレン ポリプロピレン
 ナイロン アセタール樹脂 - アクリル樹脂× ポリカーボネート ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
 日本産衛学会（2015年版） 設定されていない。
 ACGIH（2015年版） 設定されていない。
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
 ミスト、蒸気が発生する場合、換気装置を設置する。
- 保護具
 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
 手の保護具 : 保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。
 眼の保護具 : 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。
 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など : 無色の粘稠な液体。吸湿性あり。
 臭い : 無臭
 pH : 中性 pH6~8（10%水溶液）
 融点 : -59
 沸点 : 188
 引火点 : 99（密閉式）
 爆発範囲 : 下限 2.6 vol% 上限 12.6 vol%
 蒸気圧 : 10.6 Pa（20）
 蒸気密度（空気 = 1） : 2.6
 密度 : 1.034~1.040（20/20）
 溶解性 : 水に極めて溶けやすい(混和しやすい)。
 エタノール、ジエチルエーテル、クロロホルム、アセトンに
 溶ける（混和する）。
- オクタノール/水分配係数 : log Pow = -1.4
 自然発火温度 : 371
 分解温度 : データなし
 粘度 : 56.0mPa·s（56.0 cP）（20）

GHS分類
引火性液体 : 引火点99 [密閉式] (ICSC (J)) は、 > 93 であることから、
区分外とした。
自然発火性液体 : 発火点371 (ICSC (J)) であり、常温では発火しないと推定で
きるため、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常取扱条件において安定である。
吸湿性がある。
危険有害反応可能性 : 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。
避けるべき条件 : 熱、日光、裸火、静電気、スパーク
混触危険物質 : 強酸化剤 (塩素酸Na、過塩素酸Na、過酸化水素水、硝酸NH₄、
硝酸Naなど)
危険有害な分解生成物 : 熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素ガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 20000mg/kg
マウス LD50 = 24000mg/kg から区分外とした。
経皮 ウサギ LD50 = 20800mg/kg から区分外とした。
吸入 (蒸気) データがないため分類できない。
吸入 (ミスト) データがないため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性 : ウサギ 皮膚刺激性試験で陰性の結果に基づき区分外とした。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : ウサギ 眼刺激性試験で陰性の結果に基づき区分外とした。
呼吸器感作性 : 情報がないため分類できない。
皮膚感作性 : ヒトのパッチテストで、皮膚感作性なしの結果から区分外とした。
生殖細胞変異原性 : ラット骨髄細胞を用いた小核試験 (体細胞を用いる in vivo 変異原
性試験) では陰性との結果から、区分外とした。
発がん性 : ラットとイヌの2年間の経口曝露試験およびマウスの生涯経皮曝露
試験で、共に陰性であったことから、区分外とした。
生殖毒性 : マウスの二世世代試験で親動物の生殖体および生後の発生指標への
影響はなく、またラット、ウサギ、モルモット、ハムスターで催奇
形成を含む仔の発生への影響はなかったことから、区分外とした。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) : 経口曝露により、ラット、マウス、モルモット、ウサギ、イヌの
高容量で、中枢神経抑制、運動失調、麻酔作用が認められたこと
から、区分3 (麻酔作用) とした。
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) : 眠気又はめまいのおそれ (区分3)
吸引性呼吸器有害性 : データ不足のため分類できない。
データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : 魚類 (ファットヘッドミノ) LC50 = 54650mg/L/96H から区分外
とした。
水生環境慢性有害性 : 生分解性は良好 (83-96% by BOD)。
オクタノール/水分配係数 (log Pow = -1.4) から低蓄積性と推定
される。
オゾン層への有害性 : 以上のことから、区分外とした。
本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない
ため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた
産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付
して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知
の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の
処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、
そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) 燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉 (おが屑)
等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室
で焼却する。
汚染容器及び包装 : 容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容を完全に除去した後、産業廃棄物
処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制（適用法令）
 陸上規制 : 消防法、道路法の規定に従う。
 海上規制 : 特段の規制なし（分類上、非危険物）
 航空規制 : 特段の規制なし（分類上、非危険物）
 国連番号 : 非該当
 国連分類 : 非該当
 品名 : 非該当
 海洋汚染物質 : 非該当
 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。移送時にイエローカードの保持が望まれる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当
 化審法 : 優先評価化学物質 No.106 (官報公示日: 2012/12/21)
 「プロパン-1, 2-ジオール」
 優先評価化学物質の評価対象; 人健康影響
 毒物及び劇物取締法 : 非該当
 消防法 : 危険物 第4類引火性液体 第三石油類 (水溶性)、
 指定数量4000L、危険等級
 化学物質管理促進法 (PRTR法) : 非該当
 船舶安全法 : 非該当
 航空法 : 非該当
 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 Z類物質 (施行令別表第1)
 水質汚濁防止法 : 生活環境項目 (施行令第三条第一項)
 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
 〔排水基準〕160mg/L 以下 (日間平均 120mg/L 以下)
 (注) 排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合は
 それに従うこと。
 輸出貿易管理令 : 別表第1の16項 (キャッチオール規制) 第29類 有機化学品
 HSコード (輸出統計品目番号、2016年1月版): 2905.32-000
 「プロピレングリコール (プロパン-1,2-ジオール)」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。